内外情勢の回顧と展望

平成27年（2015年）1月

公安調査庁

表紙で使用している写真について

【上段】(左から)

- 「新年の辞」を発表する北朝鮮の金正恩第1書記(共同)
- 条約の調印式に臨むアクショーノフ･クリミア共和国首相(左端)やプーチン大統領(左から3人目)ら(ロイター＝共同)
- 「9.28全国集会」でのデモ行進
- CHINA-US-JUSTICE-CYBER-IT-CRIME-FILES(ロイター＝時事)
- Alleged ISIL leader appears in video footage(AFP＝時事)

【下段】(左から)

- 中国の習近平国家主席(左)と握手する韓国の朴槿恵大統領(AFP＝時事)
- 立入検査
- 平壌に到着し, 朝鮮労働党の金養建統一戦線部長(右)の出迎えを受ける朝鮮総聯の許宗萬議長(共同)
- 右派系グループの集会
- 朝鮮中央会館

内外情勢の回顧と展望（平成27年版）の発刊に当たって

公安調査庁長官　寺脇一峰

公安調査庁は，毎年1月，その前年の，公共の安全に関わる我が国内外の諸情勢を「内外情勢の回顧と展望」に取りまとめて，発刊しております。ここにその平成27年版をお届けします。

当庁は，破壊活動防止法，無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律等に基づき，公共の安全の確保を図ることを任務として，オウム真理教に対する観察処分を実施するとともに，国内諸団体，国際テロリズム，北朝鮮，中国，ロシア等の周辺諸国を始めとする諸外国の動向など，公共の安全に影響を及ぼす国内外の諸情勢に関する情報の収集及び分析に取り組み，我が国情報コミュニティの一員として，情報（インテリジェンス）の提供を通じた政策決定への貢献に努めています。

最近の内外の諸情勢を見ますと，中国による尖閣諸島周辺海域で繰り返される領海侵入など東・南シナ海における一方的な主張に基づく行動，さらに，ロシアによるクリミア「併合」に端を発したウクライナ東部における緊張激化は，いずれも「力」による一方的な現状変更の試みであるほか，中東において，「国家」の「設立」を宣言した「イラク・レバントのイスラム国」（ISIL）の活動なども，同様に「力」による一方的な現状変更の試みであり，国際秩序への重大な挑戦として安全保障環境に様々な影響を及ぼしています。また，大量破壊兵器の拡散，多発するテロ，重要情報の窃取等を狙ったサイバー攻撃などの問題はグローバルな脅威として，国際社会が共通に取組むべき課題となっています。

このような情勢の下で，我が国は，東アジアの先進民主主義国として，安定と発展を維持するとともに，自由，民主主義，基本的人権，法の支配などの普遍的価値を擁護し，東アジアのみならず，世界における平和と繁栄に貢献することが求められています。情報の収集と分析は，そのための政策の基礎として，ますます重要になっています。

加えて，6年後に行われる東京オリンピック・パラリンピックの安全かつ円滑な開催を図るため，我が国としては，サイバー攻撃やテロ等に関する情報収集機能や未然防止対策の強化等を推進することが求められています。

当庁としては，引き続き，オウム真理教に対する観察処分の厳正な実施に努めるとともに，このような時代の要請にこたえ，情報収集分析能力の一層の向上に努め，情報による貢献の強化を目指してまいりたいと考えております。

皆様には，本資料をご活用いただきますとともに，当庁の業務についてご理解を賜りますよう心から願っております。

平成26年11月

目次

02 内外情勢の回顧と展望の発刊にあたって
公安調査庁長官　寺脇 一峰

05 平成26年の公安情勢の概況

平成26年の
国外情勢

10 国外情勢1
北朝鮮・朝鮮総聯

1−1 金正恩第1書記の指導体制を強化する北朝鮮
コラム 最近の軍事動向に見られる注目点
1−2 行き詰まる対米関係，冷却化する対中関係
1−3 韓国に対して対北朝鮮姿勢の転換を執拗に求める北朝鮮
1−4 拉致被害者を含む「全ての日本人」の調査実施に合意した北朝鮮
コラム 日本人拉致問題に対する北朝鮮の対応
1−5 金正恩第1書記に対する「忠誠」の組織内徹底を図る朝鮮総聯
コラム 朝鮮中央会館の競売開始の経緯

21 国外情勢2
中国

2−1 一党独裁体制の維持に焦燥感，国家運営システムの再構築を目指す習近平政権
コラム 習近平総書記の軍隊改革の狙いと方向性
2−2 安保・経済の国際協力で新たな枠組みの構築を推進，アジアにおける主導権掌握を追求
コラム 中国の新たな国際金融機構設立に向けた動向
2−3 我が国の「右傾化」を警戒，「歴史認識問題」に絡めた国際世論戦を展開
コラム 「琉球帰属未定論」の提起・拡大を狙う中国
「旧日本軍」公文書を利用した国際世論戦
2−4 台湾民意の反発を受け，中国は，両岸の政治交渉開始につまずき

32 国外情勢3
ロシア

3−1 ウクライナを影響下に置くべく，「力による現状変更」を強行
コラム ロシアにとってのウクライナ・クリミアの重要性
ロシアの「ハイブリッド戦争」
ロシアは中国に戦略的に接近したのか
3−2 ウクライナ問題で欧米と対立する中，我が国との対話継続には前向き

38 国外情勢4
中東・北アフリカ

4 戦火が拡大するなど悪化する中東・北アフリカ情勢

40 国外情勢5
国際テロ

5−1 「『イスラム国』設立」が国際テロ情勢に多大な影響
コラム 「アルカイダ」と「イラク・レバントのイスラム国」
「ボコ・ハラム」が活動を多様化
5−2 アフガニスタン及びパキスタンの治安情勢は不安定なまま推移
5−3 東南アジアではイスラム過激組織などの脅威が継続
コラム 「ジェマー・イスラミア」

48 国外情勢6
我が国に対する有害活動

6 軍事転用可能物資・技術や重要情報の獲得を狙った活動
コラム 米中間におけるサイバー攻撃をめぐる応酬
北朝鮮の軍事関連物資調達・拡散ネットワーク

平成26年の

国内情勢

52 国内情勢1
オウム真理教

1−1 依然として危険な体質を堅持するオウム真理教

コラム 地下鉄サリン事件の発生から20年

1−2 “麻原絶対”を徹底し組織拡大を図る主流派

コラム 麻原ファミリーをめぐる教団運営の混乱

1−3 “麻原隠し”の一層の徹底を図る上祐派

58 国内情勢2
社会的に注目を浴びた事象をめぐる諸団体の動向

2−1 普天間基地代替施設建設の中止を訴える運動を展開

2−2 慰安婦問題をめぐり政府の対応を追及

2−3 「再稼働阻止」を掲げて反原発運動を継続

2−4 政府が進める重要政治課題を捉え政権批判を展開

62 国内情勢3
過激派

3−1 革労協解放派の反主流派がゲリラ事件をじゃっ起

3−2 組織拡大を企図して労働者の取り込みに力を注いだ過激派

3−3 日本赤軍・「よど号」グループの動向

コラム 米国で収監中の日本赤軍メンバー・城崎勉について

65 国内情勢4
共産党

4 安倍政権との対決姿勢を強める共産党

67 国内情勢5
右翼団体など

5−1 領土，歴史問題で周辺諸国批判などを繰り返した右翼団体

コラム 尖閣諸島海域における活動に意欲を示した内外の諸勢力

5−2 「反韓国」活動を中心に運動を展開した右派系グループ

コラム 「対抗勢力」との間で相次ぐ不法事案

70 巻末資料
平成26年の主要公安動向

73 公安庁WEBサイトの紹介

※この「内外情勢の回顧と展望」（平成27年版）は，平成26年における内外公安動向を回顧し（11月末現在），今後を展望したものです。なお，本文中，特に断りのない限り「○月」との表記は，原則として平成26年（2014年）の当該月を指し，本文に記載した人物の肩書きは，当時のものとしています。